

2021年6月3日 全5頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/6/3号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

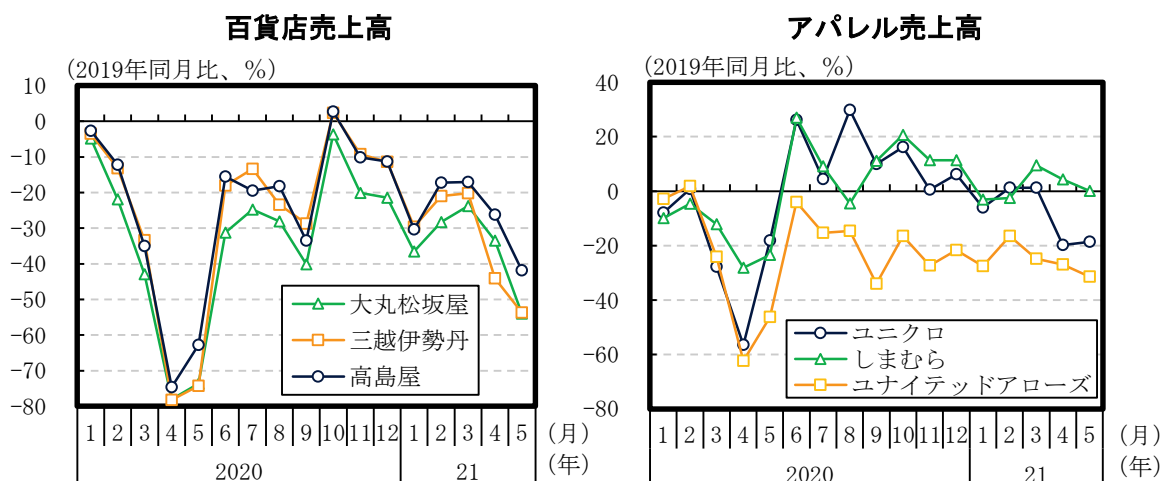
## [要約]

- 5月の消費は4月から減少したとみられる。財消費はおおむね横ばいで推移したものの、緊急事態宣言の影響が全面的に表れたことでサービス消費が落ち込んだ。
- 【小売関連】5月の大手家電量販店の売上高は4月平均比+6%程度、スーパーは横ばいであった。他方、ホームセンターは同▲3%程度、新車販売台数は同▲8%程度といずれも減少した。大手百貨店の売上高は、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同期比で4~5割減程度と4月からマイナス幅が拡大した。大手アパレルの売上高は2019年同月比の伸び率が4月から小幅に低下した。
- 【サービス関連】5月の新幹線輸送量は、2019年同期比7割減程度と4月からマイナス幅が小幅に拡大した。大型連休中の旅客機の輸送量（4月29日~5月5日）は、国内線が同65%減程度、国際線が同95%減程度と4月と同程度であった。小売店・娯楽施設の入出を見ると、5月中旬にかけて大きく減少しており、これに連動する形で外食・旅行・娯楽関連消費の落ち込みが予想される。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の5月の既存店売上高伸び率は、前年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を除くため2019年同月比で見ると、4~5割減程度と4月（同3~4割減程度）からマイナス幅が拡大。緊急事態宣言発出に伴う休業要請等が影響。
- ◆【アパレル】5月のアパレル各社の既存店売上高伸び率（2019年同月比）は前月から低下。例年より早い東海地方以西での梅雨入りのほか、ユニクロやユニテッドアローズでは緊急事態宣言に伴い、一部の店舗が休業したことなどが下押し。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

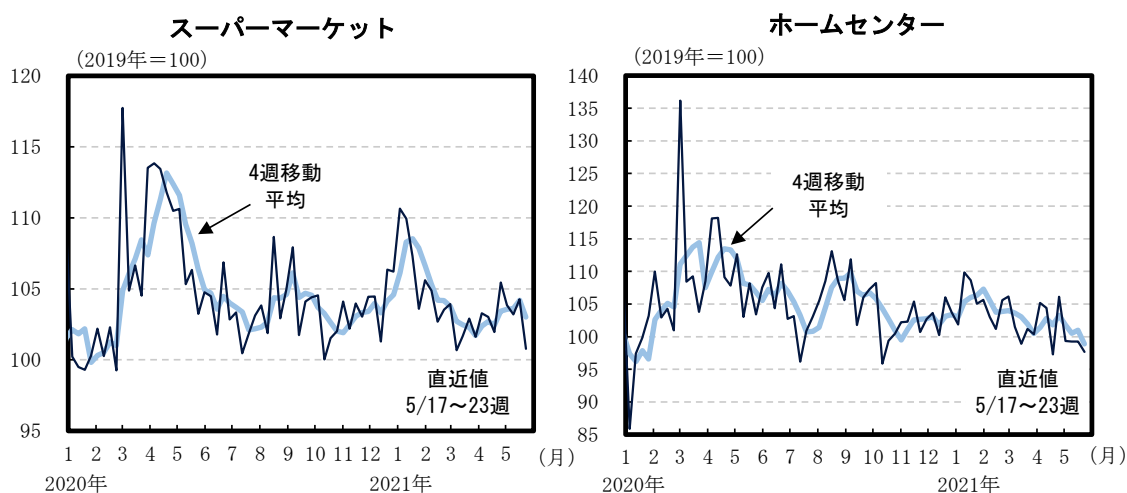
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユニテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】5月の売上高は前月から横ばい（大和総研による季節調整値）。主力の食品は同+1%程度。
- ◆【ホームセンター】5月の売上高は前月比▲3%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨、化粧品などの売上が減少。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

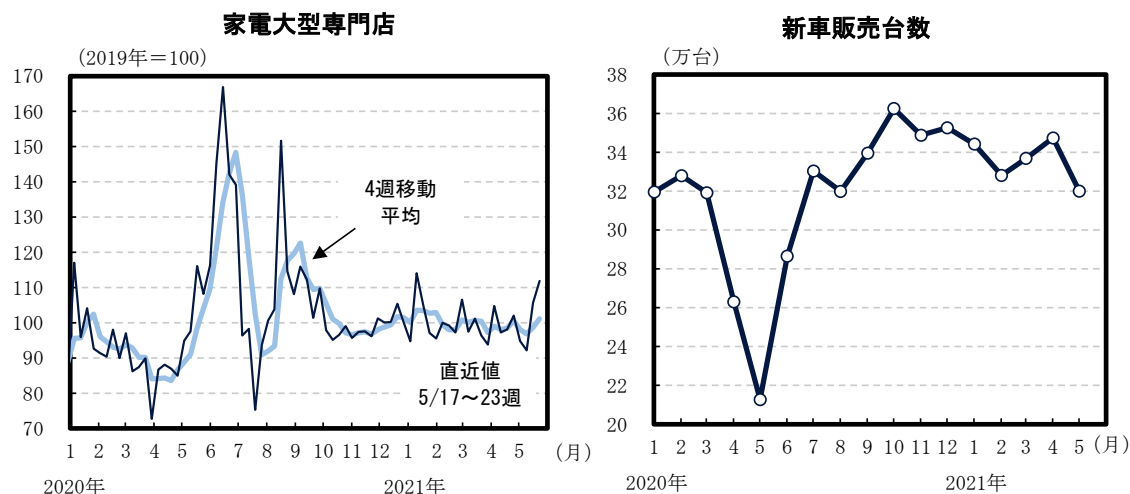


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】5月の大手家電量販店の売上高は前月比+6%程度（大和総研による季節調整値）。テレビやエアコンの売上が増加した一方、パソコン売上は減少。
- ◆【自動車】5月の新車販売台数は4月から2.7万台減少し、前月比▲8%程度（大和総研による季節調整値）。半導体不足による減産が下押し要因に。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

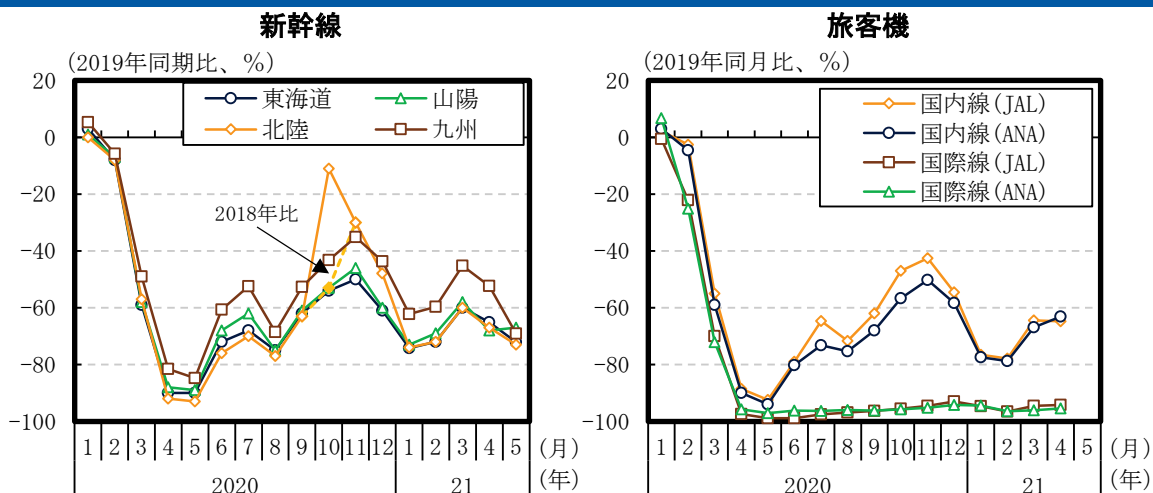
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】5月の輸送量は、2019年同期比7割減程度と4月（同5~7割減程度）からマイナス幅が小幅に拡大。緊急事態宣言の影響が全面的に表れた。
- ◆【旅客機】4月の輸送量は、国内線は2019年同月比65%減程度と3月からマイナス幅が小幅に拡大。国際線は同95%減程度と前月から横ばい。大型連休中の航空機の輸送量（4月29日~5月5日）は、国内線が2019年同期比65%減程度、国際線が同95%減程度と4月と同程度であった。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



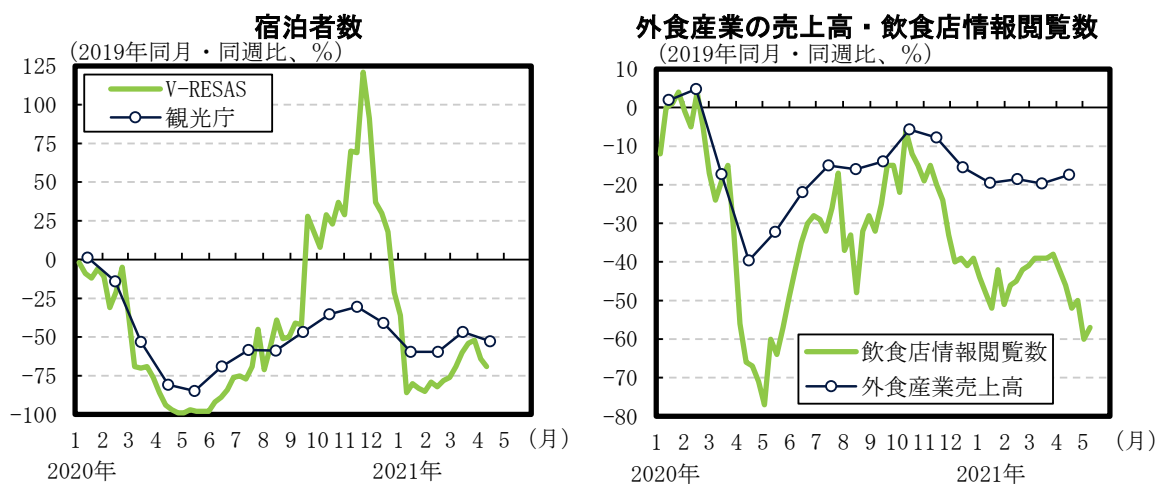
(注1) 新幹線の2021年5月の山陽・九州は14日まで、九州は22日まで、東海道は27日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】4月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比5割減程度と3月からマイナス幅が小幅に拡大。5月は緊急事態宣言の延長・対象地域拡大の影響でマイナス幅がさらに拡大したと推測。
- ◆【外食】4月上高伸び率は2019年同月比2割減程度と3月からおおむね横ばい。居酒屋やレストランなどの売上の落ち込みを好調なファーストフードが補った。5月は緊急事態宣言の影響が全面的に表れることでマイナス幅が拡大したと推測。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



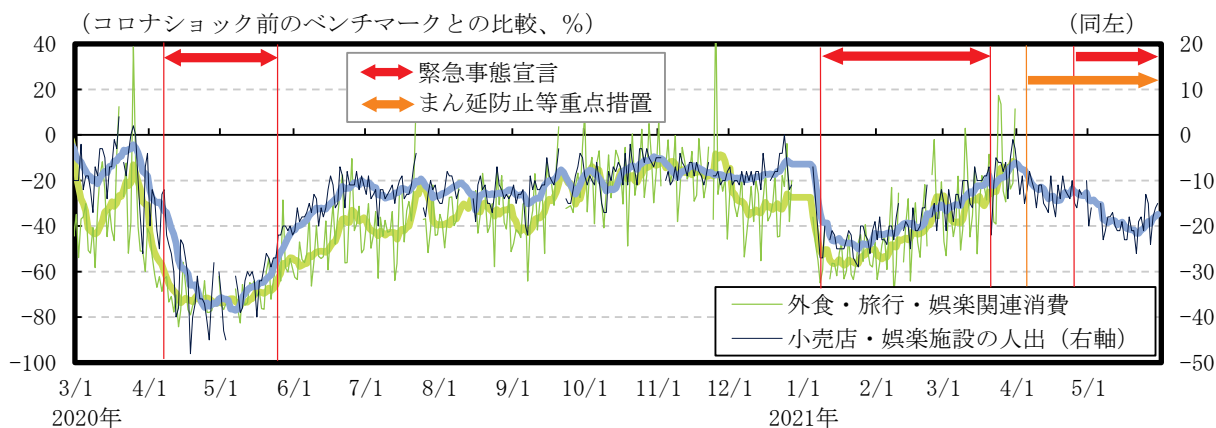
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

## <参考：人出・高速道路交通量>

### 図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 5/30）と外食・旅行・娯楽関連消費

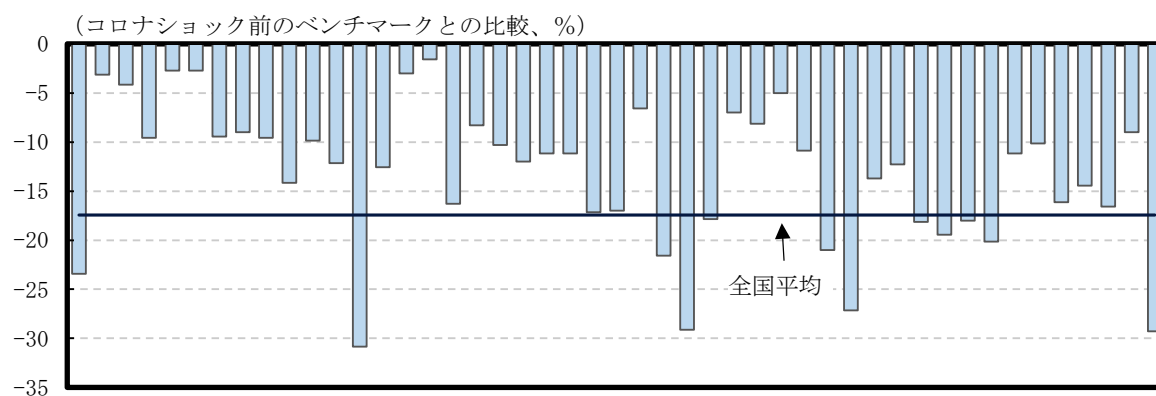


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆（2020/8/10～14）、年末年始（2020/12/28～2021/1/4）のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

### 図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出（5/24～5/30 平均、都道府県別）

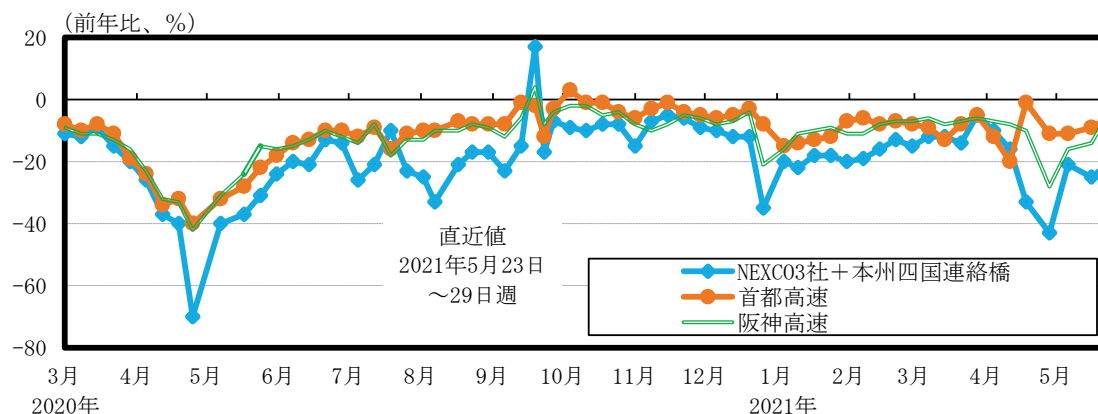


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖  
海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄  
道 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

### 図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成